

## シリーズ 私の一冊の本

食品栄養科学部 渡辺達夫 先生

ナポレオン・ヒル著 田中孝顕訳 『思考は現実化する』

閲覧室 1 階 159/H58 きこ書房 出版

二十世紀はアメリカの世紀でした。このアメリカの繁栄を支えた成功者に、鉄鋼王アンドリュー・カーネギーや石油王ジョン・ロックフェラーなどがいます。アルバイト記者であったナポレオン・ヒルが、A・カーネギーに依頼され、五百人の「成功者」を二十年にわたって無報酬で調査した結果をまとめたのが本書です。成功し物心両面で裕福になるための方法が十八章にまとめられていて、七十五年にわたって読み継がれています。このカーネギーとの出会いのチャンスを活かしてナポレオン・ヒル自身も成功哲学の第一人者として「成功者」の仲間入りを果たしました。

本書のエッセンスは、人間の思考は偉大であり、たいへんな力を持つ、力を発揮させるにはいかに潜在意識をコントロールするかが重要である、およびすべての人にはこの能力が備わっている、この三点につきと思います。何を、いつまでに成し遂げたいかを明確にし、否定的な思いに打ち勝ち、努力を続けることで、成功を得ることができるというものです。

人は否定的な思いになりがちです。人間の思念は力を持つために、否定的な思念を持つと否定的な結果を招くこととなります。大恐慌時代のルーズベルト大統領の補佐官としてもヒルは活躍し、大統領演説の草稿をたくさん書きましたが、「恐れるべきは、恐怖そのものである。」という有名な演説に、このことが明確に示されています。

また、「プラスアルファ (+α) の魔法」もポイントの一つでしょう。ヒルの調査の結果、報酬以上の仕事をする人は、そうでない人よりも、後に高い地位につき、高い報酬を得ていることが判明しました。期待されているよりも余計に仕事をすることによって、ちょっとした感動が生まれます。これが大きな成功を生む種となっていきます。

さらに、失敗に対する態度も大事で、「三度失敗してもあきらめないなら指導者になれる可能性があり、十回以上失敗しても努力を続けられれば心に天才が芽生えている。」と、あります。大事な心構えであると思います。

筆者は、二十一世紀は日本の時代であると信じているものの一人です。農耕民族であったためか、日本人は、横並びを好み、成功者を嫉妬するカルチャーを持っています。成功者を嫉妬する限り自らが成功者になることはできません。本書を熟読され、成功者をたたえながら、自らも立派な成功者になる方がどんどん出てくることを期待しています。